

## おわりに

これまで、高齢化の状況や高齢社会を乗り越えるための様々な取組みについて述べてきたが、皆さんはどのような感想を持たれたであろうか。

第4章第3節で述べたとおり、「地域包括ケアシステム」を完成させるためには、医療、介護等の各要素を充実させるだけではなく、それらを担う専門職と住民の連携ネットワーク、すなわち「地域づくり」が重要な鍵となる。また、第4章第4節で述べた「地域共生社会」は、あらゆる住民が支え合いながら自分らしく活躍できるコミュニティづくりを目指すものである。

しかし、こうした地域づくりを、誰がどのように担っていけばよいかについては、単純な正解はない。

ひとつ重要なのは、地域づくりの主要な担い手として、高齢者を位置づけるということである。例えば、介護予防や健康づくりなどは、付き合ってくれる仲間がいると取り組みやすい。日常生活のちょっとした援助も、高齢者どうしの方が気兼ねなく頼めることもあるだろう。支援を求める高齢者の役に立つことは、支える側の高齢者にとっても生きがいとなり、心身の健康にもよい効果をもたらすだろう。

また、支える側の高齢者が、ボランティアではなくビジネスとして地域貢献し、地域経済の活性化にも寄与できるように知恵を絞る必要がある。

人口高齢化は決して恐れるものではなく、高齢期になっても意欲のある方々が活躍でき、地域で皆が支え合える社会づくりを通じて、経済社会の活力を維持、発展させることは十分可能であることを、高齢化先進国である日本が、率先して示していく必要がある。